

コロナ禍でのレクリエーション実施の試み

施設名：介護老人保健施設 あけみおの里

発表者：宮城美樹

川田優子 杓谷泰亮

宮里美穂

【はじめに】

介護老人保健施設「あけみおの里」の病床は2病棟の計100床で運営されている。

3階病棟(54床)は比較的全身状態の安定した利用者で占められている。

コロナ禍で、家族との面会制限があり、お互いの交流、会話も少なくなり、レクリエーション(以下、レクと略)も実施できていない状況にある。

職員の意識の変革を図り、レクへの関心を高め、利用者の快適な療養生活の実現のために、職員へのアンケート調査を行い、レクの在り方の見直しを図った。

【アンケート結果】

レク実施できない理由として職員の挙げた理由

- ①新人職員が多く、指導できるスタッフが少ない
- ②担当の職員が決められていない為人任せの風潮になっている。
- ③介助に追われて、気持ちにゆとりがない
- ④コロナ禍で、密になることへの不安感がある。
- ⑤やり方を何していいのかわからないなどの意見がみられ、これらの要因が重なり、レクに対する認識が低下したものと思われた。

【対策】

- ①その日のリーダーがレクを担当する。
- ②レクの内容(体操・輪投げ・ボーリング等)を計画し掲示する。
- ③レクの流れを分かりやすく表示する。
- ④レクへの参加の声掛けを行う。

【結果】

担当者を決めることにより、職員の意識も高まりをみせた。午前と午後と短時間ではあるがレクを実施することができるようになった。

従来の体操中心のレクから、内容を表示することにより、集団で実施することのできる多彩な内容となり改善点も明らかになってきた。

【改善点】

- ①コロナ禍であり、感染対策は常に配慮する(レク物品の消毒等)
- ②同じ方が参加する傾向にあり、呼びかけ多くの参加を促す。
- ③朝の申し送り時の伝達の不備で開始が遅れる傾向にある。
- ④分かりやすいように、レク表の改善を図る。
- ⑤レク物品(塗り絵計算等)の準備不足に注意する。

【まとめ】

コロナ禍で、レクに関する認識が薄れていたことを反省し、レク担当を決めることで、レクへの意識が高まり、業務優先から利用者様に「楽しみ」や「生きがい」を持っていただき、メリハリのあふれる施設生活を送れるようにレクリエーションの充実を模索しこれからも取り組んでいきたい。